

2008年10月24日

各位

西武鉄道株式会社
広報部

池袋線所沢駅でのドア挟みについて

西武鉄道株式会社(本社:埼玉県所沢市、社長:後藤高志)では、10月24日(金)、池袋線所沢駅(埼玉県所沢市くすのき台 1-14-5)において、ドアに挟まった傘をお客さまが握っている状態で電車と並走するという事象が発生いたしました。

ご利用のお客さまには大変ご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。

当社ではこのたび発生した事態を厳粛に受け止め、今後、安全対策の再徹底を図り、再発防止に努めてまいります。

詳細につきましては下記のとおりです。

1. 発生日時 2008年10月24日(金)14時10分
2. 発生場所 池袋線所沢駅3番ホーム
3. 当該電車 第4232電車(準急池袋行き・10両編成・小手指駅始発)
4. 状況
 - (1) 当該電車は、所沢駅3番ホームに定刻に到着して、ドアが開きました。
 - (2) 駅員は、お客さまの乗り降りが終了したことを確認して、車掌に合図旗でドアを閉めてもよい、という合図をしました。
 - (3) 車掌は、駅員のドアを閉めてもよい、という合図を確認して、ドアを閉めました。
 - (4) 男性のお客さまが、同ホーム中央部の階段から駆け込んで来て、閉まりかけているドアに、お客さまの体はホーム上にある状態で、傘を差し込まれ、ドアに傘の先端から約20cm部分が挟まれました。
 - (5) 傘がドアに挟まれたことに気づいた駅員は合図旗を頭上にあげて左右に大きく振り、車掌に再度ドアを開けろ、という合図をしました。
 - (6) 車掌は、ドアを閉めた後、モニターと目視により、ドアの状況と駅員の合図を確認しました。この際、駅員が再度ドアを開けろ、という合図を、駅員の位置から前方が安全であることを意味する合図と勘違いして、運転士に対して電車を発車させてよいという合図をしました。
なお、当社の車両は、ドアに15mmを超えるものが挟まっている場合には、出発できないシステムになっております。
 - (7) 駅員は、ドアが再度開かないため継続して再度ドアを開けろという合図をしておりましたが、お客さまが傘を握っている状態で電車が動いたため、合図と共にホーム放送用マイクで「止まれ」と放送しました。

(8) 駅員が「止まれ」という放送をしていることに気づいた車掌は、電車を非常停止させましたが、同電車はお客さまの傘を挟み、お客さまが傘を握ったまま、約 34mほど走行した後、停止しました。

5. お客さまの負傷程度 頰椎捻挫。全治約 1 週間。

6. 原因 車掌が、駅員の再度ドアを開ける、という合図を、駅員の位置から前方が安全であることを意味する合図と勘違いして、運転士に対して電車を発車させてよいという合図をしたことによります。

7. 再発防止策 当該乗務員に対しては基本動作の徹底について再教育を行います。
また、全運転関係従事員に対し、基本動作の徹底に関する通達を出し、お客さまの安全を担う職責の重さをあらためて徹底いたします。

以 上